

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道163号 <small>きよたまいこま</small> 清滝生駒道路	事業区分	一般国道
起終点	自：大阪府四條畷市大字中野 至：奈良県生駒市鹿畑町	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
延長	11.0km		

事業概要
 国道163号は、大阪市から三重県津市に至る延長約110kmの幹線道路であり、地域の経済、産業活動を支え、生活道路として重要な役割を担っている。清滝生駒道路は、国道163号の交通混雑の緩和、異常気象時通行規制区間の解消、交通安全の確保、関西文化学術研究都市の開発支援等を目的とした地域高規格道路である。

S54年度事業化	S54～S62年度都市計画決定	S56年度用地着手	S56年度工事着手
全体事業費	約990億円	事業進捗率	37%
計画交通量	36,100台/日	供用済み延長	3.6km

費用対効果分析結果	B/C: (事業全体)	総費用: (残事業)/(事業全体)	総便益: (残事業)/(事業全体)	基準年: 平成15年
	2.1 (残事業) 2.8	652/1,120億円 (事業費: 611/1,079億円) (維持管理費: 41/41億円)	1,826/2,390億円 (走行時間短縮便益: 1,628/2,102億円) (走行費用減少便益: 147/217億円) (交通事故減少便益: 51/68億円)	

事業の効果等
 ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置づけあり）
 ・生活環境の改善・保全（夜間要請限度を超過している北田原地区の騒音レベル低下が見込まれる）他5項目に該当

関係する地方公共団体の意見
 清滝生駒道路は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、四條畷市をはじめとする関係2市2町の首長で構成される一般国道163号整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成14年12月）を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
 国道163号の交通量は、年々増加傾向にあり、四條畷市清滝で約3.4万台/日、生駒市北田原町で約2.4万台/日と交通容量を大きく上回っている。

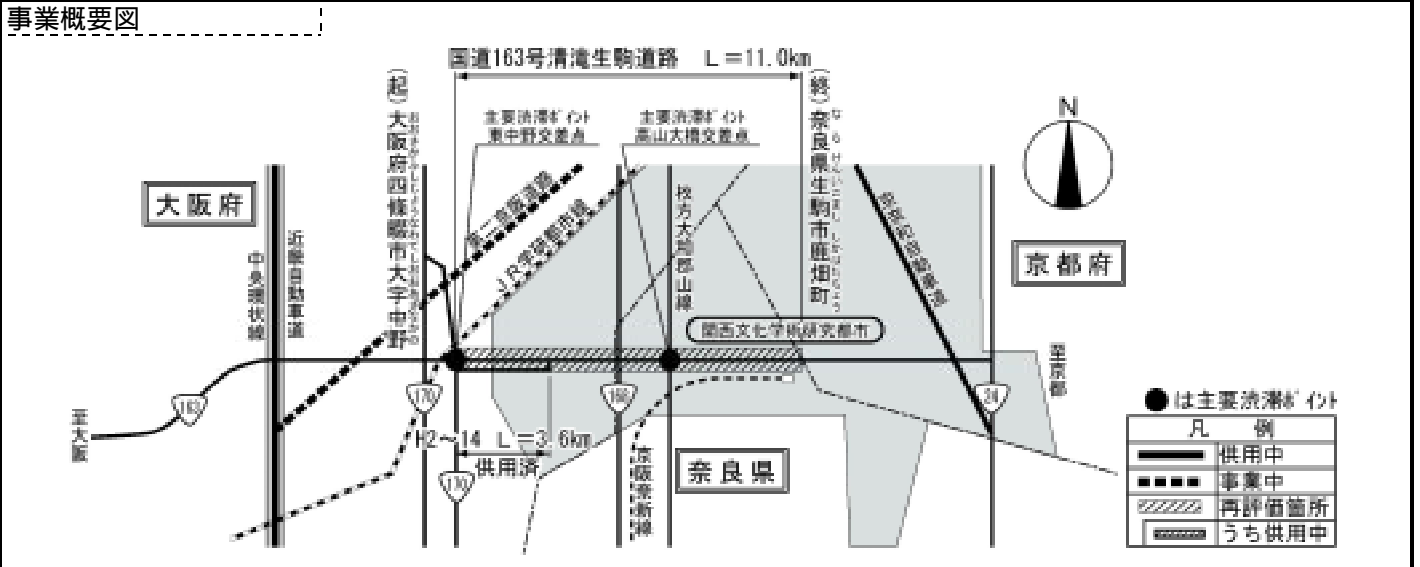
事業の進捗状況、残事業の内容等
 平成14年度までに順次整備が行われ、これまでにL=3.6kmの暫定供用(2/4)を図っている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
 一部区間において埋蔵文化財調査に時間を要したほか、交通量の多い現道を切り回しながらの工事であるため時間を要した。引き続き事業を進め、東中野交差点からL=1.9km区間については、平成17年度に完成供用予定である。

施設の構造や工法の変更等
 地元との合意形成を図りつつ、ランプの構造を見直す等コスト縮減を図っている。また、今後整備する区間についても、清滝トンネルの発生土を他工区に有効活用する等コスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。